

# 世界の落雷情報 ネットで共有

## 受信機設置 道内でも

### 札幌は稼働中 名寄、陸別に計画

世界各地の落雷情報をインターネットで共有する民間の取り組み「Blitzortung.org」(ブリッツ)が、



国内で広がっている。落雷を感知する受信機を研究者や市民が設置し、落雷位置をリアルタイムで公開することで防災に役立てようという試みで、道内ではすでに札幌に設置されたほか、道東・北での新設も計画されている。

ブリッツは5年ほど前にドイツの研究者らが立ち上げ、欧米を中心に約1500基の受信機が設置された。国内では湘南工大(神奈川県)の成田知巳教授(電工工学)が呼びかけ人となり、落雷の受信機やホームページについて説明する湘南工大の成田知巳教授

り、これまでに札幌から沖縄までの13カ所で設置されている。

受信機は、落雷で生じる電磁波を捉え、インターネット回線を通じてデータをドイツのサーバーへ送信する仕組み。落雷から数秒後には、サイト上の地図に落雷の位置が表示される。受信機1基で半径5千〜6千

米範囲内の落雷の感知が可能で、落雷を捉える受信機の数が多いほど、正確な位置の把握につながるという。

受信機の基盤はドイツの大学教授らが開発。インターネットを通して申し込み、購入することもできる。費用は関連機器を含めて約5万円。弁当箱程度のケースに収まるため、場所も取らないのが特徴だ。

成田教授によると、落雷情報は、電力会社や気象情報会社がインターネットで

提供しているが、一部は有料だったり、表示地域が限定的だったりするケースが多いといい、「ブリッツは雷が移動する様子もよく分かり、被害防止にもつながる」と設置を進める。

道内では、北大大学院理学研究員の佐藤光輝講師(大気電気学)が取り組みに参加し、昨年12月に北大構内に受信機を設置した。佐藤講師は「道内でも落雷が増加しているという研究結果がある。他の研究者との協力で合計で4、5カ所に設置したい」と話し、名寄市や十勝管内陸別町などでの設置準備を進めている。

ブリッツは閲覧無料。世界の落雷マップ (<https://www.lightningsmaps.org/>) や、日本語の解説サイト (<http://www.566.jp.com/>) で情報を公開している。

2017.4.24

### 北のうた 暦

初蝶の沈む踏込み消毒槽  
家畜伝染病の影響で、最近の食豆家畜舎などには必ず、外来者の足元を薬液の入った器で踏み込み消毒槽されている。酪農家の作者が詠んだ一景。衛生的になったのは良いが、が牛たちと触れ合う機会は減った。初蝶も牛たちの傍らで舞い戯れられ、消毒液の中に沈んでいる。

### 太陽光ファンド 優遇税制を悪用

出資110社に節約  
太陽光発電所建設に携わるファンド運営会社が優遇税制を悪用し、出資企業約110社の法人税額を節約させていたことが関係者への取材で23日分かった。発電事業会社が約20億円の損失を不正計上し、それを出資各社に分配することで出資各社の利益が圧縮され、法人税を少なくしていた。

東京国税局の判明した。出資正の認識はなかったが、修正申告するとみられる。

優遇税制が適用の適用を受け、2016年3

アイヌ民族の女性が受けている民族と女性による複合差別的解消を目的とした全国組織「アイヌ女性会議ーメノコモシモシ」の設立総会が23日、札幌市内で開かれた。2020年の道内開催を目指す食に関する先住民の世界集会「先住民族テラ・マードレ(ITHM)」の事前イベントを、今年10月28、29日に札幌市内で開くことを決めた。

## 設立総会に国内外80人

アイヌ語で「メノコ」は

な社会の構築を目指すスロ



参加者 味わう  
に根から吸い上げる...  
富に含みます。採れた...  
深町では4月の1...  
けて、木に小さな穴を...  
しみ出た樹液を集め...  
飲み物、お菓子から